

## 「また明日」と言える学校に

5月8日に新型コロナウイルス感染症の感染法上の位置付けが5類になり全校集会で皆が一堂に会したり、各教室においても声を出して歌ったりなど、コロナ禍以前の教育活動が戻りつつあります。毎日教室のあちらこちらから聞こえてくる子どもたちの元気のよい声に、私たち職員もたくさんの元気をもらっているところです。

さて、本校に着任してから、2か月ほどが経ちました。毎日の子どもたちとの学校生活の中で、私が個人的に大好きな場面はたくさんありますが、その一つが、登下校の場面です。本校は、通学バス7台で全校生徒の約半数の生徒が、その他は、公共交通機関で、自転車で、徒歩で、放課後デイサービスの車で、そして保護者さんの送迎で登下校します。本校の狭いロータリーにひっきりなしにバスや車が行き来しますので、職員総出で子どもたちを見守ります。朝は、まだ眠気が取れない様子の子もや気分が乗らない生徒もちらほら見られますが、「おはよう！」「今日は〇〇があるよ。」「今日も頑張ろうね！」などの声があちらこちらから聞かれます。下校の時間も同じです。子どもの手をしっかり握ってバスに乗せたり保護者さんに引き渡したり。今日一日の様子やご家庭での様子などを伝え合う保護者さんたちとの時間。そして、あちらこちらからこだまする「また明日ね。さようなら。」の声と手を振り合う職員・子どもたち。毎日繰り広げられる恒例の風景ですが、笑顔あふれる、心がポカポカになるシーンです。「また明日ね」と言える学校、私たちが目指すべき学校の在り様だと思います。